進学の夢 民間の支援頼み

児童養護施設の高校生

大学進学を希望する児童養護施設の高校生を対象に、府内の学習塾が無料指導をしたり、社会福祉協議会が勉強の場を設けたりする動きが出ている。同じ境遇の高校生同士で励まし合い、受験に臨むための支援だ。ただ、国費で経済的支援を受けられる制度の拡充を求める声が上がっている。(村上晃宏)

「プログラマーになるために、何歳でもいいから大学に行きたい」

豊田市にある児童養護施設「愛隣館」。大学生の講師と向き合っていた男子生徒(16)は、そう夢を語っていた。「周りに大学進学を目指す子どもがいない。通うお金もない」と諦めていたという。

施設は4月から、その生徒を含む施設の高校生3人に週1回、無料で90分の個別指導を行っている。

児童養護施設 虐待や両親の離婚などを理由に、家庭での養育が難しくなった18歳未満の子どもたちが生活する。厚労省によると、昨年10月1日現在、全国の595か所に2万8831人が暮らす。子供は原則18歳で施設を出なければならず、昨年高校などを卒業した施設出身者の約1割は就職していない。

勉強を見る児童養護施設の高校生(右)=プログラマーの夢へ向け、大学進学を目指す(豊田市で)

会(大阪市北区)の職員は「家庭学習する習慣がない子が多い。進路を決める段階で、『やる気がある』のるのに環境に差があり、努力をしてきた子どもたちが、親のようにお金の援助ができない子どもたちが、進学を諦めてしまうケースが多い。虐待などが原因で施設にいる子どもに、『できること』をしたかった」と話す。

■増える支援者

厚生労働省によると、児童養護施設で暮らす中学生と高校生は2013年度、ともに約2万人。進学率は中学生が98・1%、高校生が97・9%と高いが、大学などへの進学率は15・3%にとどまる。

経済的な理由で高校を中退したり、大学などへの進学を諦めたりするケースが多いとされる。

財政上の理由などから、高校生には支援されていない。また、児童養護施設の高校生は対象から外れている。

こうした支援の空白に着目し、府社会福祉協議会が昨秋から、府内の児童養護施設で暮らす高校生に1年生の希望者に、塾の費用を全額負担する「進学プログラム」を始めた。

今年度は、愛隣館など3施設の高校生3人が参加。週1回、1人当たり2時間の個別指導を受けている。

■資金に限界、国の制度化必要

府内では、民間の支援が広がりつつある。児童養護施設の高校生を対象に、塾の費用を全額負担する「進学プログラム」を始めた府社会福祉協議会。昨秋から、府内の児童養護施設で暮らす高校生に1年生の希望者に、塾の費用を全額負担する「進学プログラム」を始めた。

今年度は、愛隣館など3施設の高校生3人が参加。週1回、1人当たり2時間の個別指導を受けている。

昨年度の希望者は4人だったが、今年度は1回増えて5人に。

府によると、児童養護施設の高校生のうち、大学などへの進学率は15・3%。全体の進学率(73・3%)と大きな差がある。

全国児童養護施設協議会の調査(昨年)では、「能力があり経済的余裕がなく進学をあきらめる子がいる」と答えた施設は12・3%。

全国児童養護施設協議会の武藤素明副会長(61)は「能力があり、塾や学費の援助があれば進学できる子どもは多い。民間の取り組みには限界があり、進学を諦める施設の高校生への支援を、国が制度化する必要がある」と訴えている。

クロスロード おおさか